

本資料のうち、枠囲みの内容は、
営業秘密又は防護上の観点から
公開できません。

TK-1-611 改0

平成30年5月18日
日本原子力発電（株）

飛来物として設定する車両の設定について（先行事例との比較）

東海第二発電所では隣接事業所からの飛来物として車両を想定しているが、伊方3号機においても同様に車両を飛来物として想定していることから、両者の違いについて整理した。

項目		東海第二	伊方 [※]	備考
車両の 寸法, 重量		3.6m×2.5m×8.6m 5,000kg	4.6m×1.6m×1.4m 2,000kg	東二は種々の車種の解析結果のうち、使用済燃料乾式貯蔵建屋排気口への到達有無を考慮。伊方は現地調査結果に基づき設定。
飛散 速度	水平	52	47	下記解析手法に基づく。 ※：鉛直方向の有意な衝突箇所は無いと判断
	鉛直	— [※]	32	
飛距離		約186m		※当社によるトレース計算
浮上高さ		約17.5m		初期位置からの浮上がり分 ※：同上
風速場モデル		フジタモデル	ランキン渦モデル	
初期高さ		0m ^{※1}	40m ^{※2}	※1：現実的にも車両は地表にあると判断し設定。 ※2：NRC手法を参照。ランキン渦モデルの場合、飛散速度は初期高さ0mでも変化しない（飛距離のみ変化）
感度解析		ランキン渦モデル （初期高さ40m） での評価 ・水平速度：52m/s ・飛距離：325m	—	伊方と同じ手法でも、水平速度はほぼ同等。

以上